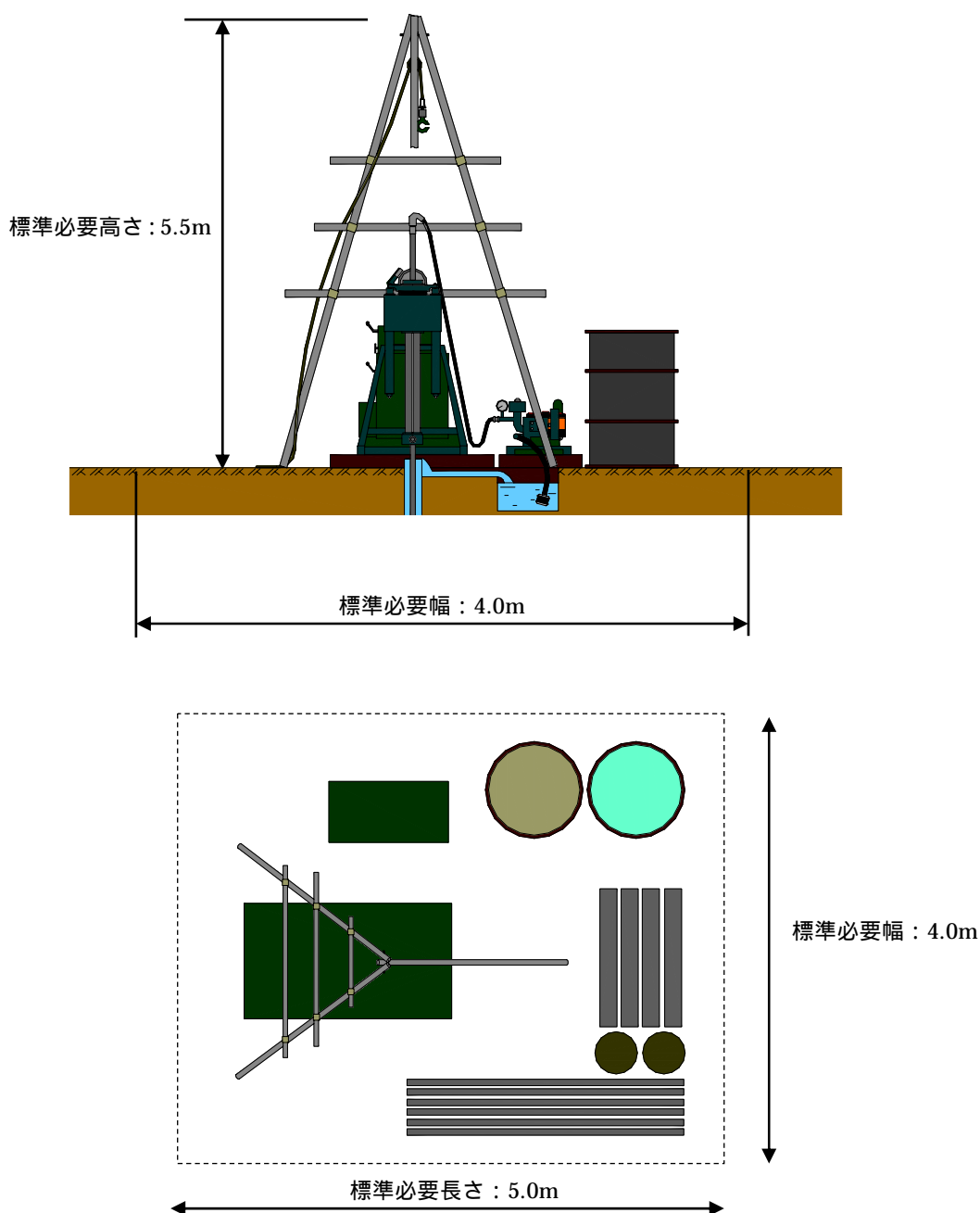


仮設・運搬

有効作業範囲

地質調査は ボーリングマシン+ポンプ、三又櫓(やぐら)、資材等、作業員スペースからなり、下図に示すような4×5m程度が標準的な範囲が必要となります。ただし現地状況に応じ、資材等の配置を変更することにより、狭小地など現地状況に対応した施工が可能となる場合もあります。

なお三又櫓高さが標準で約5.5m程度あるため、高さ制限のある建物内などの場合、短い三又櫓の使用や天井を一部解体するなどの対応が必要となります。



機械設置方法（仮設工）

ボーリングマシンの設置方法は、調査箇所の条件により以下の方法で行います。

平坦で設置場所が土や砂利敷きの場合

・・・ 普通仮設（標準的な仮設）

平坦で設置場所が土間コン、AS 舗装の場合

・・・ 嵩上げ仮設（角材等による）

緩傾斜地や法面などの場合

・・・ 片足場仮設（足場パイプによる）

急傾斜地、海上、水上などの場合

・・・ 本足場仮設（足場パイプによる）



普通仮設（標準仮設）



嵩上げ仮設



片足場仮設

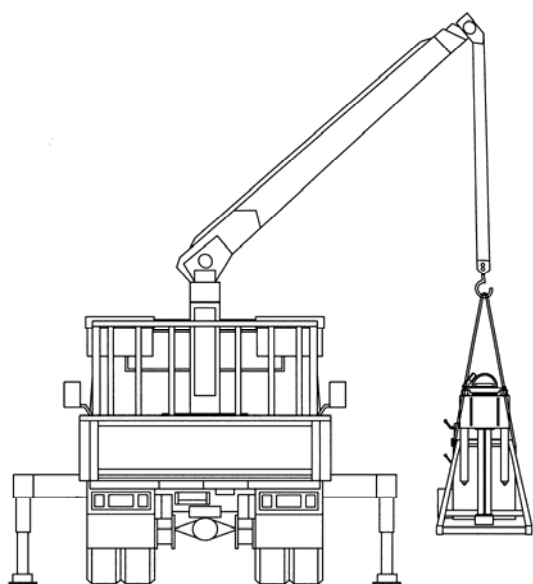


本足場仮設

資機材の運搬及び搬入出

地質調査に使用するボーリングマシン及び資機材の運搬は、通常の場合小型クレーン付き 2～3t トラック（ユニック車）で行います。

また現地では、ボーリングマシン及び資機材を小型クレーンにより吊り降ろしを行います。



小型クレーンによる吊り降ろし状況

現場内運搬

地質調査を行う箇所（地点）へ小型クレーンを使用し直接搬入できない悪路や狭小地、傾斜地の場合、ボーリング資機材を以下の方法により運搬します。

- a) トラックが通行できない悪路等 . . . 不整地運搬車（小型キャリアダンプ）
- b) 狭小地や段差のある場所 . . . 機械解体による人力運搬
- c) 山地などの傾斜地等 . . . モノレール運搬



a) 不整地運搬車（小型キャリアダンプ）による資機材運搬



b) 機械解体後、人力による資機材運搬

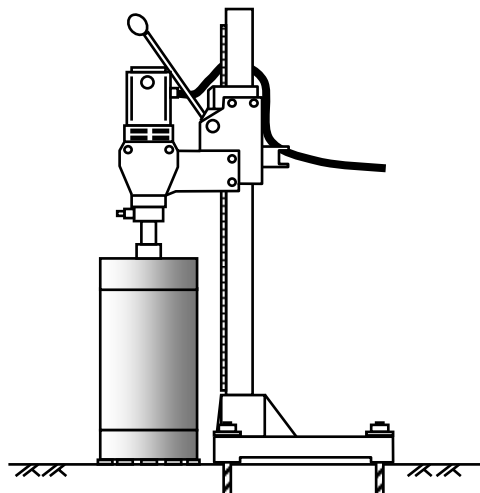


c) モノレールによる資機材運搬

その他

a) 土間コン、As 舗装コア抜き

調査箇所が土間コン上または As 舗装上の場合、ボーリングマシンを設置する前に事前にコアカッターによりコア抜きを行います。



土間コン、As 舗装用コアカッター

b) 埋設物調査

ボーリングマシンを使用した地質調査（削孔）を行う箇所の直下、若しくは近傍に地下埋設物が敷設されていることが確実または可能性がある場合、それら有無を確認するためにダブルスコップまたはハンドオーガーにて確認します。



ダブルスコップによる探査



ハンドオーガーによる探査